

＝平成30年度早川南小学校だより＝

はるき

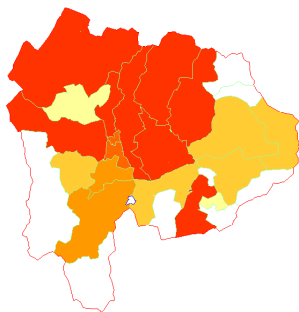


平成31年1月17日

No.40

校長 坂野 修一

インフルエンザにご注意を！



稀勢の里が引退しました。日本人横綱として頑張ってほしかっただけに残念でありませんが、仕方がないですね。稀勢の里の付け人経験もあったという郷土力士の竜電関には、稀勢の里の分まで奮闘してほしいと思います。

さて、今日のサンニチにも載っていましたが、インフルエンザが猛威を奮って来ました。左の山梨県地図は、色の濃いところはインフルエンザが大流行している所、薄くなるにつれて、インフルエンザが流行していない所です。保健所管内で言えば、中北、峡東、そして我が峡南の患者数が注意報レベルになっているとのことです。

昨日の Facebook にもあったとおり、インフルエンザの予防には、①こまめな水分補給 ②手洗いうがい ③定期的な換気 ④十分な休養 が欠かせません。昨年は、ありがとうコンサートの前後に大流行したと聞いています。今年は、そんなことにならないよう、子どもたちも教職員も気をつけたいですね。保護者の皆様、お子様の健康管理をよろしくお願いします。

阪神・淡路大震災



1995年(平成7年)1月17日午前5時46分に発生した阪神・淡路大震災から、今日で24年が経ちました。今朝のニュースや情報番組では、地震の起きた5時46分の黙祷の様子などを伝えていました。死者・行方不明者は6,437人に達し、建築物や都市基盤に甚大な被害をもたらしました。

私は、当時下吉田東小学校という富士吉田市内の学校に勤務していました。河口湖のアパートも揺れ、直後のニュースで、「神戸でとても大きな地震が発生した…」との情報だけを耳にし、まもなく2歳になろうとしていた長男を車に乗せ、託児所に預け出勤しました。冬休み明け久しぶりの登園だったので助手席のチャイルドシートの長男が泣き叫んでおり、地震の被害のことを心配できる状況になかった私でした。その日が始業式だったので給食がなく、子どもが下校したあと吉田のうどん屋で耳に入ってきたどんどん増えていく死者・行方不明者の数に、うどんが喉に通らなかったことも忘れられません。住宅や高速道路の倒壊、火災で延焼する神戸の様子がテレビに映し出され、その深刻な状況に驚嘆しました。その神戸を昨年11月プライベートで訪ねましたが、大地震があった形跡など何もなかったような気がします。

2011年(平成23年)3月11日の東日本大震災とあわせ、間もなく終わろうとしている平成の時代にあったこの2つの巨大地震は、次の時代には来るかもしれない地震に備えるためにも、教訓にしなければなりません。9月1日の防災の日も含め、1年に3回は地震について話題にし、その対応について家族や職場、さらには地域社会で考える日にしてほしいと思うのです。「備えあれば憂いなし」肝に銘じたい言葉です。

◎連絡

2月1日(金)の教育を語る会について、着々と準備が進んでいるところです。講演終了後の下校方法について確認しているところですが、来週21日(月)までにはご提出下さい。せっかくの機会ですので、お話を一緒に聴きませんか？